

「道の駅」とは？

「道の駅」が誕生した背景・経緯



- 平成2年1月に、中国・地域づくり交流会のシンポジウムの中で、「鉄道にも駅があるように、道路にも駅があていいのでは」との提案がなされたことが「道の駅」の始まり。
(山口県船方総合農場グループ代表 坂本多旦(かずあき)氏)
- 平成2年6月に行われた“宮島シンポジウム”道路・交通分科会で「道路の駅」の話題が紹介され、イメージ図が公開された。これが現在の「道の駅」の基礎となっている。
- 平成2年11月から平成3年2月にかけて、中国五県でリレーシンポジウムが開催され、広島での総括において、道の駅づくりが提案された。



写真 宮島でのシンポジウム風景

出典:いま、中国地域が動く(中国・地域づくり交流会)



「道の駅」 社会実験で基礎固め

- 平成3年10月から平成4年4月にかけて山口県、岐阜県、栃木県の3地域において、仮設の休憩施設を利用して「道の駅」の実験が地元市町村の主体性に基づいて実施された。
- 地元のコミュニティが活性化されたり、地元の特産物をPRすることができた等、たくさんの効果が報告された。





- 「道の駅」は、制度発足から25年が経過、全国各地に広がり、現在1000を超える施設が登録されている。売上高は大手コンビニチェーン並の規模となっている。
- 当初は、通過する道路利用者へのサービスが中心であったが、近年は、農業・観光・福祉・防災・文化など、地域の個性、魅力を活かした様々な取り組みが進められている。

「道の駅」の機能



道路情報、
観光情報等

休憩機能

駐車場、トイレ
(24時間無料)

情報発信
機能

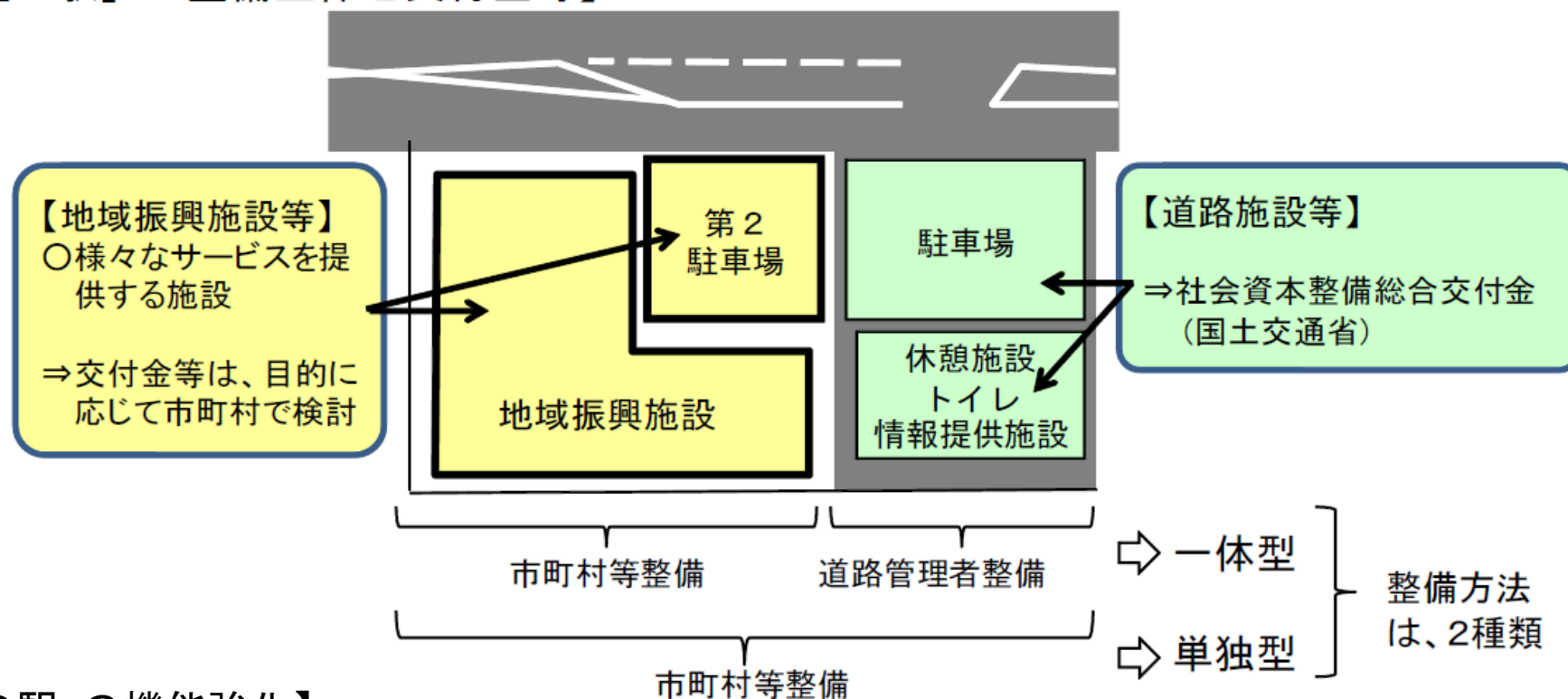
地域連携
機能

地域製品の販売等

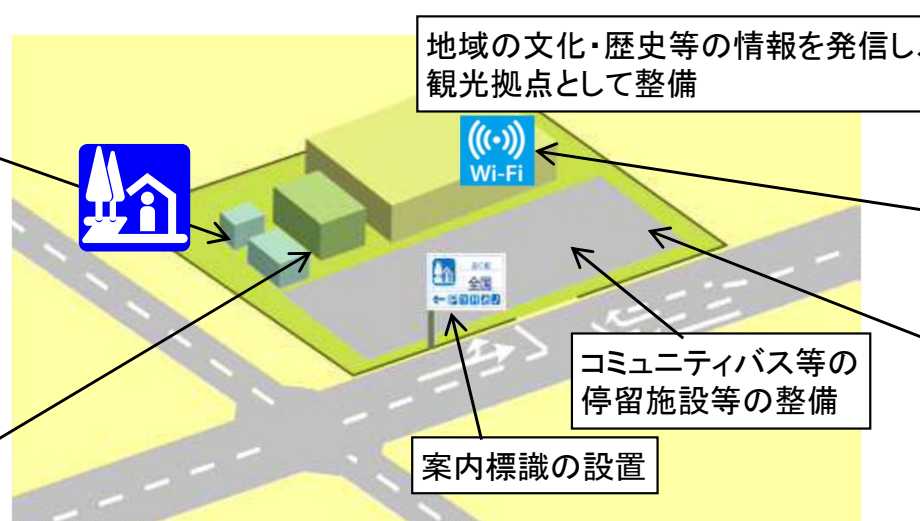


「道の駅」 「道の駅」の制度 施設イメージ

【「道の駅」の整備主体と交付金等】



【「道の駅」の機能強化】



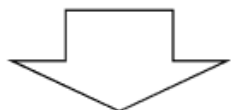


「道の駅」第3ステージについて

第1ステージ(1993年～)

『通過する道路利用者のサービス提供の場』

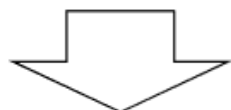
- 道路利用者が安心して休憩できる場を提供



第2ステージ(2013年～)

『道の駅自体が目的地』

- 地域の創意工夫により、道の駅自体が観光の目的地や地域の拠点に発展



＜観光客や家族が楽しめる空間の提供＞
※道の駅「川場田園プラザ」



＜加工場の併設により地域雇用の創出＞
※道の駅「川場田園プラザ」



＜防災セミナーの開催＞
※道の駅「もてぎ」

第3ステージ(2020年～2025年)

『地方創生・観光を加速する拠点』

- 各「道の駅」における自由な発想と地元の熱意の下で、観光や防災など更なる地方創生に向けた取り組みを、官民の力を合わせて加速
- 「道の駅」同士や民間企業、道路関係団体等との繋がりを面的に広げることによって、元気に稼ぐ地域経営の拠点として力を高めるとともに、新たな魅力を持つ地域づくりに貢献

新たな「道の駅」ネットワーク



第3ステージの概要

